

## 令和2年度活動報告書

会 員 名	酒田市		
活 動 名	写真展 風待ちの港「飛島」1963 宮本常一写真展～写真で知る飛島のいにしえと未来への継承～		
主 催 者	「海の日」記念事業実行委員会(事務局:酒田市)		
報 告 者	所属	酒田市 地域創生部 商工港湾課	TEL
	氏名		E-mai
協議会以外の共催・後援等	Lab PHOTOGRAPH+PLANNING		
実 施 時 期	令和2年10月28日～11月8日		
実 施 規 模	会場:酒田出羽遊心館 ホール、研修室 入場者約450人		
実施事業費	571,703円		
実 施 概 要	活 動 全 般		
	<p>山口県出身の民俗学者宮本常一が1963年(昭和38年)に撮影した山形県唯一の飛島の多様な歴史を捉えた写真展を開催する。加えて日本ジオパークに認定された鳥海山・飛島ジオパークの関連資料と移住者が興した会社、合同会社 とびしまの活動もパネルとして展示する。</p> <p>飛島は、かつて北前船の時代に酒田港の風待ち港として活用されていた。現在も飛島へのアクセスを担う定期船の発着場は、みなとオアシス酒田の構成施設となっている等、港と海への関わりが深い。本年は市への合併70周年(1950年合併)を迎え、過疎化が進行しているものの、若者が移住し地域活性化に取り組むなど新たな動きもみられる。写真展により飛島の歴史を振り返るとともに、次世代に継承していくことが目的。</p>		
	他の会員の参考となる新しい試み等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現像した写真は市の財産として保管、今後の関連イベントへの貸し出しも可能。また飛島の観光拠点「とびしまマリンプラザ」の改修を計画しており、改修後は写真の常設展示を検討している。以上から複数年度にわたって効果が持続する仕組みとしている。</li> <li>・関係部署と連携し、飛島を舞台とした映画を同時期に上映。相互の入場者増加に貢献。</li> <li>・コロナ禍で遠出が出来ない環境下でこそ、身近な観光資源や歴史、文化を住民に再認識してもらうことで郷土愛の醸成を図る。</li> </ul>		
実施にあたり苦労した点 (今後他の会員が実施する上で注意する点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での開催につき、感染症対策の徹底がすべてにおいて求められた</li> <li>・民間企業、教育機関など広範な協力が必要であったため、調整に時間を要した</li> <li>・開催場所や資材の調達</li> </ul>		
参加者の反響 (参加者の声)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当時を知る世代からは当時を懐かしむ声が多数あった</li> <li>・内容のみならず撮影技術自体に関心ある写真家、文化人の来訪も多かった</li> </ul>		
活動に対するPR内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報チラシを作成し、市の主要観光施設、県立高校、コミュニティセンター等に配布(2,200枚)</li> <li>・市の公式HP、広報誌、SNS、職員用掲示板にイベント概要を掲載し、集客を図った</li> </ul>		
マスコミ等の反響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元紙の山形新聞、コミュニティ新聞にテーマの説明込みで開催案内掲載</li> </ul>		
実施状況写真	別紙のとおり		



# 風待ちの港「飛島」1963

宮本常一写真展 ～写真で知る飛島のいにしえと未来への継承～

2020年10月28日(水)～11月8日(日)

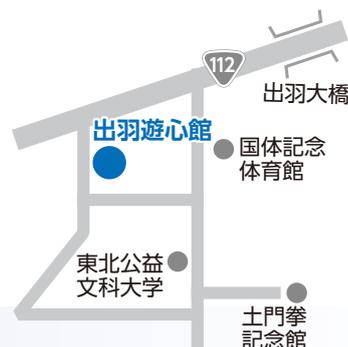
会場：出羽遊心館 (酒田市飯森山三丁目17-86 TEL.0234-31-3737)

時間：午前9時から午後5時 (入館は午後4時30分まで、11/2(月)は休館)



山形県唯一の離島・飛島の約60年前の暮らし、  
風景、文化を知る貴重な写真を展示

山形県出身の民俗学者宮本常一が撮影した1963年(昭和38年)の飛島。  
島の成り立ちや北前船の隆盛が作った文化、離島の暮らしの原風景  
そして現在に繋がる歴史が刻まれた写真を展示します。



主催：「海の日」記念事業実行委員会、LabPHOTOGRAPH+PLANNING

事務局：酒田市地域創生部商工港湾課港湾振興室 Tel:0234-26-5758 e-mail:kowan@city.sakata.lg.jp

※るんるんバスのご利用の際は、酒田駅大学線「出羽遊心館・美術館」が最寄りとなります。





